

「市長と語る意見交換会」

～西尾市方式 PFI 事業について～

会議録

日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）

午後 6 時 30 分から

場所：一色地域交流センター〔多目的ホール〕

意見交換会日程

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 PFI 事業の現状について
- 4 意見交換会（前半）
- 5 休憩
- 6 意見交換会（後半）
- 7 閉会

○出席者

市関係者

中村市長、長島副市長、近藤企画部長

PFI 事業検証室：齋藤企画部次長（室長）、築瀬主幹、原田主幹ほか 6 名

一般参加者

290 人

平成 29 年度「市長と語る意見交換会～西尾市方式 PFI 事業について～」(一色地区)

○司会

皆さま、こんばんは。

私は、意見交換会の事務局を務めます企画政策課 PFI 事業検証室事業計画担当主幹の原田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る意見交換会～西尾市方式 PFI について～」を開会いたします。

はじめに本日の出席者をご紹介します。正面中央の中村市長を始め、皆様から向かって右へ、長島副市長、企画部長、左へ企画政策課 PFI 事業検証室職員が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。本日の「市長と語る意見交換会」の開催目的は、この意見交換会で市民の皆様の PFI 事業についての率直な意見をお聞かせいただき、今後の事業の見直しの参考にさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。つづきまして受付で配布させていただいた資料の確認と、本日の予定をご案内させていただきます。配布資料は「市長と語る意見交換会～西尾市方式 PFI 事業～」になります。別添資料、旧一色支所本館劣化度調査結果、こちらの両面印刷のものになります。そして一緒に配布させていただきました、市長と語る意見交換会についてのアンケートと筆記用具でございます。不足している方はこちらの事務局の方に申し出てください。よろしいでしょうか。

このあと市長からあいさつと PFI 事業についての考えなどをお話させていただきます。その後配布資料により、事務局から PFI 事業の現状についてご説明させていただきます。そして市長との意見交換会のお時間を取りたいと思います。意見交換会の途中で、予定では午後 7 時 20 分ごろ一旦 10 分ぐらいの休憩を取りたいと思います。この時間を使い、自分から挙手はしないが意見がある方はお配りしましたアンケート用紙、自由意見欄に意見などを記入していただき、事務局が回収しますので、提出していただければ意見交換再開後、事務局で整理できましたら、アンケートの自由意見欄を紹介する時間を取り、市長みずから読み上げさせていただきます。その時間で提出されない方は、意見交換会終了後、お帰りの歳、出口で回収させていただきます。

質問の回答を希望される方、お名前と連絡先を記入していただければ、ご連絡させていただきます。皆様との意見交換会のお時間は、案内では午後 8 時とさせていただいておりますが、若干の延長も考えております。最後に事務局より事務連絡を申し上げて閉会したいと思います。ご協力をお願い致します。

なお、記録用として、意見交換会の音声録音と 写真撮影をさせていただき、意見交換会記録は 準備出来次第、公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○市長

こんばんは。市長の中村健でございます。本日は本当に多くの方々にお越しいたごましましてありがとうございます。昨日少し吉良会場で意見交換会を開催させていただいて、約 250 名くらい来ていただいたんですけど、本日も同じくらいかそれ以上の方に来ていただいて、関心の高さに自分ながら驚いているところでございます。私が市長として就任させていただいたのが、7 月 5 日であります。10 月下旬に

工事が一部を除いて中断したわけでございますけれども、その 3 ヶ月間で、これまでの経緯についての検証ですとか、また工事を一旦止めるために、時間を使ってきて、本当に職員が僕の意を汲んで動いてくれてたんですけど、ただその一方で、こちら側から市民の皆さんに対する、情報発信ですとか、また市民のみなさんが、事業についてどう考えているのかというのを、なかなか聞く時間が持てないなかで、今回このような時期までずれ込んでしまったことをまずはお詫び申し上げます。

私自身が市長選挙に出た時に、この PFI 事業の凍結見直しを訴えてまいりました。議員として 4 年間やっていくなかで、この PFI 事業を 1 つのプロセスのなかで、市民の皆さんの声をしっかり聞いてきたかということに対し、はなはだ疑問に思っています。市が決めたことに対する説明はある程度してきたと思っていますが、その前の段階で、やっぱり市民の皆さんの意見を聞くということは大事だと思っています。それがなかなかやることができないなかで事業が決まって、選挙を挟んで現在に至るところではございますが、本日は今回西尾市が実施しようとしている、西尾市方式 PFI 事業について率直な意見をいただきたいというのが一番の目的でございます。たくさんの事業がありますので、当然今回は一色地区なので、一色において行われる事業について関心が高いかと思えます。もちろんそちらについてご意見やご質問をいただくのも歓迎ですし、それ以外のことについても本当に率直なご意見をいただきたいと思えます。賛成する意見、反対する意見とか、そういった善悪、良し悪しをここで決めたいわけではなくて、100 人いれば 100 人の考え方があって、それを真摯に受け止めたいと言うのが一番の主旨でありますので、また特定の意見に対して攻撃するとか、そういったことではなくて、この会場においてはどんな意見が出て、ご意見は尊重していただきたいと思えます。

昨日吉良会場のなかでたくさんのご意見ご質問をいただきました。傾向としては、西尾市がやろうとしている PFI についての仕組みですとか、そういったところのご意見が多かったかなと思えます。もちろんそういったところでも結構なんですけど、今回実際例えば一色ですと、市営住宅を作る作らないとかあるんですけど、適用している建物とか、計画している建物について、「この部分を、もう少しこうならないか」とか、実際に使う側にたってのご意見もありがたいですし、吉良の時みたいに「そもそもの仕組みとしてこれはどうなのか」「そこについては良いからやってくれ」という意見も当然あると思えますし、そうしたことを限られた時間ではありますけれども、ひとりでも多くの方にご意見をいただくなかで、市としての見直し案を作っていこうと考えておりますので、本日はどうかよろしくお願いいたします。以上です。

○司会

続きまして、PFI 事業の現状について、PFI 事業検証室より、ご説明いたします。本日配布させていただきました資料につきましては、過去の説明会で配布させていただきました資料をもとに、作成しております。それでは、よろしくお願いいたします。

○事務局

企画政策課 PFI 事業検証室の加藤と申します。着座にて説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは PFI 事業の現状について、事務局より、ご説明申し上げます。なお、本日は、市民の皆様からのご意見をたくさん出していただき、市長がそれに答える時間をできる限り多く設けていきたいと考

えておりますので、現状の説明については簡潔かつ要点に絞って行うことをお許しください。

では、お手元の配布資料の 2 ページをご覧ください。

「1 西尾市の公共施設再配置の歩み」についてであります。ここには、西尾市が旧幡豆郡三町と合併をした平成 23 年度から取り組んでまいりました公共施設再配置の歩みが記載されています。公共施設再配置は将来の人口規模、財政規模に応じて、合併により増加した公共施設の総量を圧縮していこうという取り組みでありまして、西尾市のみならず全国の自治体においても行政課題として取り組んでいるものであります。

次に資料の 3 ページをご覧ください。

「2 西尾市方式 PFI 事業の歩み」についてであります。ここには、平成 25 年度に策定した『西尾市公共施設再配置実施計画』で示した 5 つの再配置プロジェクトを 26 年度末に PFI 事業で発注して、27 年度中に事業者選定を行い、28 年度に事業契約を締結し、現在に至るまでの経過が記載されています。

次に資料の 5 ページをご覧ください。

「3 西尾市方式 PFI 事業の検証の動き」についてであります。ここには、中村市長就任後の PFI 事業の検証経過について記載されています。

主な動きとしては、8 月 10 日に市長直属の PFI 事業検証プロジェクトチームを設置し、PFI 事業の契約相手である特別目的会社(株)エリアプラン西尾に対して、PFI 事業の一時中止を求める文書を通知しました。8 月 23 日には、SPC をはじめ関係事業者の説明会を開催し、9 月 19 日には、PFI 事業の凍結・見直しに向けて SPC と初めて協議を行いました。10 月 1 日には、PFI 事業検証プロジェクトチームを廃止し、企画政策課内に PFI 事業検証室を設置しました。10 月 27 日に資料 6 ページの内容を SPC に対応を求めています。現在は、弁護士に西尾市の代理人として委任し、SPC との交渉を行っていただいています。

次に資料の 7 ページをご覧ください。

「4 PFI 事業（再配置プロジェクト）の概要」についてであります。ここから 33 ページまでは、PFI 事業の計画概要が説明されています。大変申し訳ありませんが、本日は時間の都合上、この中で、一色地区に関係する事業についてのみご説明申し上げますので、よろしく申し上げます。

資料の 15 ページをご覧ください。

防災機能を備えた多機能型市営住宅については、老朽化が著しい対米住宅と巨海住宅を統廃合する形で、一色支所跡地に建設が計画されており、定住化促進の目的も兼ねた市営住宅であります。入居戸数 90 戸で南東向き 10 階建の建物に、津波一時待避所として 1,000 人を超える収容が可能な計画であります。当初の計画では今年度に設計を行い、今年度末から来年度にかけて建設し、平成 31 年度に入居開始を予定しておりましたが、現在、基本設計完成目前で設計業務を停止しています。また、一色支所の解体工事も仮囲いフェンスをほぼ建てた段階で停止しています。

次に資料の 17 ページをご覧ください。いっしき市民交流広場（仮称）は、一色学びの館、一色町公民館、一色健康センターの 3 館を総称したもので、各施設の一部を改修して、各施設の魅力度を向上させながら、地域の方々が様々な形で学び、交流し、憩える、新たなまちづくりの拠点づくりを目指しているものです。既に一色町公民館 1 階を改修して本年 7 月に一色支所事務室を移転しています。また、この事業については、市民サービスの影響を考慮しまして、当初の計画のどおり、今年度中に改修工事を終え、新年度からリニューアルオープンをしていきたいと考えております。なお、改修後の平面図は、資料の 36 ページから 38 ページに掲載しております。

次に、資料の 27 ページをご覧ください。一色町体育館は、一色中学校の体育館として利用されている建物ですが、老朽化が著しいため、長寿命化に向けた改修工事が計画されています。当初の計画では、平成 31 年度に設計、32 年度に改修工事を予定しておりました。

別添資料 旧一色支所本館劣化度調査結果をご覧ください。旧一色支所本館劣化度調査は、本年 9 月 26 日から 29 日にかけて行いました。劣化度調査の概要は、コンクリート圧縮強度や中性化深さを確認するための、コンクリートコア抜取による調査を 12 箇所、鉄筋の腐食状況、かぶり厚さ及び中性化深さの確認を行うための、コンクリート研りによる調査を 5 箇所行いました。

グレーに着色された部分は、平成 24 年度の調査結果を記載してあり、着色されていない部分は、今回の調査結果を記載してあります。上段、(1) コンクリートコア抜取による調査をご覧ください。コンクリート圧縮強度の最小値は 1 階の試験番号 1-3 の 13.4N/mm²、最大値は 3 階の 3-3 の 34.8N/mm² とかなりばらつきが大きい結果となっており、数値が大きいほどコンクリート強度が高いことを示します。コンクリート中性化深さは、3 階の 3-1 で 36.9mm 4 階の 4-24 で 39.7mm 5 階の 5-1 で 47.1mm 5-3 で 47.5mm と上階ほど中性化が進行している結果となっています。

下段、(2) コンクリート研りによる調査をご覧ください。コンクリートコア抜取による調査と同様、コンクリート研りによる中性化深さの調査でも、上階ほど中性化が進行している結果となっています。なお、かぶり厚さとは、鉄筋を覆うコンクリートの厚さのことで、コンクリートはアルカリ性で、鉄筋が錆びるのを防ぎますが、表面から徐々に中性化し鉄筋が錆びる原因となります。特に 4 階、5 階は、中性化深さが鉄筋まで到達している部分もあり、コンクリート内にある鉄筋が、腐食グレードⅢ「断面欠損は目視観察では認められないが、鉄筋の全周または全長にわたって浮きさびが生じている。」状態となっています。

以上、調査結果から平成 24 年度に行われた前回調査結果とほぼ同じ結果となり、「建物の長寿命化が難しい施設である」との判断には変わりはありませんでした。なお、別添資料の裏面は、西尾市公共施設再配置実施計画の抜粋となっています。以上で、PFI 事業の現状についての説明とさせていただきます。

○事務局

私、PFI 事業検証室の齋藤と申します。よろしくお願いたします。ただいまの調査結果について、1 つ申し添えさせていただきます。旧一色町の役場の建物につきましては、平成 17 年度に耐震改修をしております。それと今回の劣化度調査につきましては、多少意味合いが違います。耐震診断し、耐震改修をした建物ですが、劣化度調査というのは、そのコンクリートがどれだけ中性化しているのか、ということ調査したものであります。耐震改修イコール劣化度ではないということだけ、頭のなかに入れておいていただきたいと思っております。

○司会

事務局の説明は終わりました。それでは市長との意見交換会を始めたいと思っております。私から指名させていただきますので、ご要望、ご意見などのあります方は、挙手をしていただき、お住いの地区名、お名前を名乗っていただいてから、お話をさせていただきますようお願いいたします。職員がマイクをお持ちしますので、それまで手を上げていただきますよう、お願いたします。なお、より多くの方にご発言いただけるよう、要旨は簡潔にまとめ、ご発言いただきますよう、ご協力をお願いいたします。意見に対

しての拍手はご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。それでは、ご発言のある方、挙手をお願いします。

○市民

PFI 見直しということで、今の中村市長にぜひ実行してほしい。ほとんどの町内会長さんが（旧一色支所の）存続を要望しています。これで工事も止まるかと思っていたのに、支所の周りに塀みたいなのが建てられている。これが市の要望書に対する回答かと思うと、非常につかりした思いです。非常に憤りを感じる。今までの説明で、いろいろ考えてやられたと思うのですが、そのなかで 1 つ気になるのが、市民クラブという団体、会派がありますよね。このまえの広報でも、その市民クラブの会派議員から「PFI 推進の方の説明がないじゃないか」というような質問をされた議員がおられる。いったい、その市民クラブというのは、なんの市議なんですか。市民は PFI 見直しということで中村市長に委ねた。それを真っ向から否定されるような質問をされたというふうに広報の内容になっていた。いったい、この市民クラブっていうのはどこの市議なんですか。旧榊原市長の亡霊の集まりなのか。

今の支所の有望な使いみち、一色高校の和太鼓部は練習の場所に困っていると言われている。見直しなら見直して方向を変えてほしい。まったくその様子が見られない。影も形もない。いったい市民クラブはどちらを向いて話をしているのか。PFI 事業を推進してきた市議による説明会を開いてほしい。市民クラブの議員さんはみえますか。市民クラブの先生にそのへんどう考えているのか、聞きたい。

○市長

ありがとうございます。議会うんぬんというのはこの場では申し上げられないのですが、今ご意見いただいたなかで支所を存続させて欲しいというなかで、例えば和太鼓部の練習の意見が出まして、例えばその、それ以外の使いみち、活用方法として、「こういったものがあると良いんじゃないか」とかご意見があれば、また追加でお聞かせいただければありがたいですし、逆に支所を壊すとなったとしても、それを踏まえて、「こういう活用を跡地にしてほしい」とか、そういったところのご意見をいただくと大変参考になりますので、その辺を踏まえてご意見等をいただくとありがたいと思います。

○市民

旧一色町役場の問題ですが、あれは今塀で囲ってあるんで、あのまま壊れるまで放つといたらいいかですか。今お金をかけるような問題ではないと思います。そこへ対米住宅を建てるということも、これは大反対であります。なんで所得の低い人達が、10 階建てのエレベーター付きのマンションらしきものに入らなければならないのですか。私も 40 年前に対米住宅に入りました。だけど努力して自分の家を建てました。努力するのが当然でしょう。それをなんであんな良い所、一等地に作らなければならないんですか。対米住宅を作るなら、今の対米住宅を壊して、あそこに 3 階建を何棟か建てたら対処できるんじゃないですか。それだけ意見させてもらって、終わります。市長、それは市長になられる時に、僕はお話したはずですよ。

○市民

今回の市長選で、中村市長に 58,000 票入った。榊原元市長には 30,000 弱。約倍の票が入った。それ

は民意であると解釈すべきことだと思います。それに対して反対市議を含む現在の市議会の行動に対しては、非常に疑問を感じるばかりです。公共施設再配置というのは今後行わなければならないということは十分に承知しております。これはやらなければ、市そのものの財政がパンクしてしまう。これは当たり前のことだと思います。私がお願いしたいのは、以前一色町における現在の旧一色町役場の使用方法、それとプールを寺津に持っていき、寺津中学校の方へ持っていきのを開始してしまうという、子どもたちにとって重なる施設を1点にまとめてしまうというのはよろしくない。これも廃止していただきたい。なぜ一色役場のことをお願いするかというと、あの一色の中心部のいちばん重要な土地を、今まで延々と一色町の住民の方が税金を収めて、あの土地を買ったんですよ。確保した土地です。その一等地に10階建てのアパートを建てるなんてことは論外であります。ただ1階部分にある福祉施設がありますよね。

そこは福祉総合施設というのを作ってもらいたい。なぜそれをお願いするかというと、現在社協で「一色ひだまり」という老人施設があります。この人達は一生懸命に活動して、デーサービス等のサービスの模範的な活動をしています。そこがああ地区に建てようと思った時に、8,000万のお金がかかるんです。8,000万の敷金を出せということ。こういうような形で、どうしても採算ということを考えると、そうやっていっちゃうんです。それは仕方ないと思うんだけど、元来福祉というものは、お金がかかるものである。それを独立採算で、民間に売りに出して、プラスを出そうなんてのは、僕は不可能だと思うんです。あそこには住宅ではなくて、総合の福祉センター、赤ちゃんからお年寄りまで、すべての人達があそこに集って、憲法で保証されている生活を、自分たちが一生あそこで、「この施設があつてよかった」「こうしてみなさんとお話することができてよかった」「一人で孤独死しないでよかった」そういうふうな施設に是非建てていただきたいと思います。

○市民

市長さんの公約にあったPFIの一旦中止と見直し、この公約についてようやく中止というところに入った。本来であれば遅いと思います。今見直しということで今年度末まで凍結ということだとも思います。となると時間があまりありません。今回の決断はもう少し早くやっていただきたいかった。29年度はあと4ヶ月位しかありません。それまでにここで出るような意見を十分に聞いていただいて、しかも副市長、議会との打合せをしっかりとやっていただく、その前に、市長さんがまず内容を把握していただきたい。どこが悪いか問題があったかを市長さん自身が考えて、あなた自身の意見をしっかりと持っていただきたい。それに対して市と議員と市民と打合せをして、ここに書いた意見が参考になると思いますけれども、そういうふうな形で進めるか認めるか、やらないのかそういったことを検討していただきたい。特にお願いしたいのが市長さん自身ももっと勉強していただいて、自分自身で考えを持って、判断をしていただきたい。それをお願いしたい。地方新聞等に、今までのPFIの事業計画について見積もり等をするわけですが、その決算書がないというふうに出ている。それとPFIとの会議を16回やったというのだが、それについての議事録が作られてないということですね。これはあったかないかということですので、なければしっかりとやっていただきたいです。この3点をお願いしたいと思います。

行政改革とか各委員会の議会がありますけれども、これに傍聴席ありますね。傍聴席があるのだから、できるだけ市民の方が参加できるように、公表をしていただきたい。

○市民

こんばんは。僕は PFI のことはよくわからないけど、せっかく耐震工事もしてエレベーターまでつけた一色支所を壊すのはやめてほしいです。お金の無駄遣いだと思います。市民が頑張って働いて払った税金を無駄遣いしてほしくないです。僕達が大人になった時に、「西尾に住んでよかったな」「これからもずっと住んでいたいな」と思えるような西尾市にしてください。僕達の未来のためにがんばってください。応援しています、よろしくお願いします。

○市民

私は旧一色支所は残していただきたい。実際には防災にも役立つと思う。老人福祉センターが危険施設だと思う。そういうのを、そこに移ってもらって活用して、一色の拠点として誰かがいなければならぬと思います。命山という話も随分前から出ていますが、命山作るのに1つ3億円と聞いていますが、旧一色支所は避難場所としては最高じゃないかと思います。トイレもあるし、屋根もあるし、そういう意味では1ヶ月でも2ヶ月でも、いることができる施設なので、大事に整理をしていただいて、2階は30年良いということも聞いてますので、悪いところは直していただいて、使っていただきたいと思います。耐震もやったことですし、そういう意味では有効に使っていただきたい。

○市民

建物には耐用年数というものがあるから古いものは壊した方がいいと思います。市は津波への対策をもう少ししてほしい。一色には高い建物がありませんから、今回住宅を立てるにしても、そこに何人の方が助かるかということで、対米に3階建と言ってましたが、津波対策をやっていただきたいと思います。

○市民

一色のみなさんにとっては旧一色支所には思い入れがあると思います。ただ、耐震補強したとこなのにどうして壊すのかなってところはあります。今回それとは別で、中性化がどうのこうのと言われても、なんで耐震補強した時にこのことがわからなかったのかな、と思うところなんですけども、どちらにしてもあそこを住宅にしちゃって高い入居料を取るみたいなことも聞いてますし、そういうのが必要なのかというの。ただ、みんなで使える福祉施設もそうですし、山本真輔さんという世界に誇れるような有名な彫刻家の作品は他所の市が欲しがっていて、よその市に流れていくのは嫌なので。出来るだけ西尾市で保存して、素晴らしい文化遺産を残して行ってほしいと思います。

○事務局

耐震補強の時に、中性化を調べたのかとのご質問ですが、同じようにコア抜き、コンクリートを抜いております。その時に、中性化の調査をしております。その時の調査結果は見えておりませんが、多少の中性化は進んでいたと認識しております。その中性化を加味して耐震補強はしております。ただ24年度に中性化の試験をした時には、それが4階ではより進んでいた、ということがわかったものですから、再配置基本計画、実施計画の中では、3,4,5階の未利用施設がある、2階に玄関があって使い勝手が悪い、1階から入れない。とうようなことで、その時には一色支所を壊していきましょう、という判断をしたという経過です。

○司会

意見のある方にお願いがございます。会場が広いもんですから、後ろの上段の方までお声が届いていないということなので、意見のある方はもう少し大きな声で、ご発言いただきますようお願いいたします。では最初に予定しておりました時刻に間もなく、午後7時20分ですが、ここであと一人ということで、休憩を取りたいと思いますので、どなたかございますでしょうか。

○市民

地元防災会は2年に一度、防災月間で神戸や京都に行きました。浜松、先月は名古屋にも行きました。今の西尾市には、よそから研修に来るとい施設がありません。旧一色支所をそういうセンターにしてはどうかという意見もあるように聞きます。ぜひそれを作ってもらって。また西尾市にはいろいろな地場産業があります。たくさんあっても世間の人々がそれを買ってくれるという所があまりありません。僕らが防災センターに去年行った時に、そこの役員に聞いたところ、「来られる方は、防災研修と半分は観光で来てます」とのことでした。一色の防災センターで一色の地場産物を販売し「そこに行けば買える」。世間の人々が西尾に来てくれて、一色に来てくれて、「西尾市は良いところだな」と思ってくれるような施設を作ってもらいたい。

○司会

ここで10分間の休憩を取りたいと思います。再開は午後7時30分にいたします。最初にご案内しました、アンケートの自由意見欄にご記入された方は、こちらにお出しいただくか、職員が回りますのでそちらに提出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(10分間休憩)

○司会

再開いたします。休憩の間に集めさせていただきましたアンケートの自由意見欄の整理ができましたら、途中でアンケートの紹介時間に切り替えさせていただきます。整理を行うわけですが、文書が長いアンケートにつきましては、今回の整理ができませんので、意見の発表はご遠慮したいと思います。しかし、市長には必ず目を通していただきますようにしますので、よろしくお願いいたします。それでは意見交換会を再開いたします。

○市民

皆さんの意見に賛成で、役場は残していただきたい。対米住宅についても今住んでいる方も引続きあそこで暮らしたほうが良いという意見も多いと聞きます。巨海住宅もそうですが順次建て替えて、市営住宅についてはそのまま継続していただきたいです。1つ質問で、SPCの豊和さんだと思うのですが、一色さかなセンターの近くのスケートボード場を作るとい話があつて、さすが豊和さんだな、いい案だなと思つたんですけど。というのはさかなセンターは継続的に人が来てほしい場所なんですね。広い場所でもあるし、若者が集まってくれば、一色の産業の発展にもいい効果があるのではないかと

たんですが、あれはなくなってしまったんですが、なぜあの案がなくなったのか、教えてください。

○事務局

検証室ですので詳しくはないのですが、契約書上では継続協議になっています。作るか作らないか正式には決まっていないというような状態になっています。よろしく願いいたします。

○司会

アンケートの整理ができましたので、市長みずから読み上げさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○市長

本当にたくさんの方からアンケートのご意見をいただきました。ありがとうございます。本日直接対話をさせていただく時間を重視しているわけですが、なかなか直接手を上げて意見するというのがはばかれる方もみえますので、そういったご意見についても、あるんだなと会場内で共有したいと思いますので、紹介をさせていただきたいと思います。

(以下、市長読み上げ)

意見 1

各施設事業の見直しには、市民が求めるものを優先してもらいたい。また、市として必要と考えるものであるなら、優先依頼の低いものでも市民に説明をして市民の理解を得て進めてください。

意見 2

西尾市方式 PFI 事業に賛成。防災機能を備えた多機能型市営住宅は、ぜひ進めてほしい。他の市に遅れることなく、公共施設再配置を進めてほしい。寺津温水プールが難しいなら、一色 B&G プールを改修して欲しい。

意見 3

小・中学校のプールの件（寺津温水プール）の統合化には問題があります。生徒をどのように移動するのか。安全と時間の確保。

意見 4

現在 SPC に求めている対応の今後の成否・勝算および西尾市としての PFI 見直し活動の今後のスケジュール・マイルストーンが知りたい。その時々での市民への情報公開を強く求めます。

意見 5

SPC に対応を求めたことはきいているが、SPC 側の対応はどのようなか知りたい。今後、どの時期までにどんなことをしていくのか、具体的な市としての計画を知りたい。PFI の見直しは絶対必要だと思っています。市民にもっと情報公開してください。

意見 6

一色地区の人口はピーク 2.5 万人より約 1 割減ってますが、市営住宅をやめると一色地区の定住化対策はどのようになりますか。人口はどんどん減っていき一色地区の活力が失われていきます。

意見 7

議員同士の対話の場を公開してください。

意見 8

PFI について基本的に賛成です。現状では中止・中断するにもお金がかかります。そのお金を負担するのは市民になるはずで。それは困ります。

意見 9

一色支所「避難所」として活用して欲しいと思います。小・中学校のプールを廃止しないで欲しい。

意見 10

無理のない計画を進めてください。

意見 11

東南海地震の津波対策をどのように考えてみえるのか役所の人の考えを教えてください。あと 10～15 年現状のままではいかがでしょうか。命山が欲しいです。

意見 12

現状の施設を改修で対応。新設で施設を作るのであればもっと地元の意見を取り入れること。

意見 13

旧一色支所は解体より部屋をいくつも作り、市民の利用しやすい様にしてほしい。学校のプールはやはり各学校に有ったほうが良い。前野ちびっ子広場に子供達が遊んでいるのを見かけます。そのまま残して欲しい。

意見 14

住民の利益、生活の向上につながるのであれば推進すべきではないか。補修で長寿命化は期待できないのではないか。新設ならある程度期待はできる。もちろん見直し等は随時必要ではあるが。

意見 15

市民の大多数が PFI を理解しているだろうか。情報公開を今以上に求める。広報無線を利用するのも良いかも。

意見 16

PFI・・・民間資金の活用とは何ですか。10階建の必要について、どうしてあの場所か。

意見 17

B&Gのプールの廃止について、今まであるプールを作り変えるなら分かるが、廃止はいかがか。また、各小学校のプールを無くすというのは反対です。旧役場の跡地に市営住宅は考え直していただきたい。一色町の中心地に市営住宅とは。産廃は絶対反対。

○市長

まだまだたくさんのご意見をいただきましたけれども、一部紹介させていただきました、ありがとうございました。

○司会

本当にたくさんの方の意見をいただきました。ありがとうございました。アンケートをご紹介できなかった皆様すみませんでした。必ず市長が目を通しますので、ご質問のある方で連絡先をご記入の方にはまた後日お答えしたいと思いますので、よろしく願いいたします。それではまた意見交換会の方に切り替えさせていただきます。先程市長が読み上げた意見も踏まえまして、またご意見のある方、挙手をお願いします。

○市民

市長さんが一番困って見えることが何なのか、私達に上手く伝わってこないんですね。こうじゃないかというような、一番お困りのことが伝わってこない。情報が私達に入ってこないんです。市長さんが市長に当選されてから、一番最初に私7月ぐらいに市役所に行きました。今日のようなこういう会を早めに開いて欲しいという願いをして、実は回覧板も作ってあったんですね。ですけど、ちょっと今日では遅いんですね。今アンケートにもたくさん出してみえましたが、もう少しこういう場を設けていただいたり、いろんな会議を市役所に呼びつけていただければ、私達も出かけていきますので、とにかく情報を増やしていただきたいと思います。6ページにSPCに対して求める対応と書いてありますが、この辺の見通しも具体的に率直に伺いたいと思って、今日は来たんです。いずれにしても、ちょっと資料も含めて、いきなり三十数ページの資料を出されまして、精査できないので、私達も私達なりに分析もしますが、もう少し余裕があって情報が私達の方に伝わってくると良いと思います。

お話を聞いていて2つ。1点は地震・津波・浸水のことですが、私たちは命山だけではなくて、避難棟とか避難タワーとか、避難場所ですね、そういうものをもうちょっと命山だけではなくて、タワーとかそういうものをいろんな施設に作ってもらって。例えば命山ですと、メンテナンスが大変だと思うんですね。徳島県に私達2~3週間後に見学に行くのですが、あそこには109もそういう施設があるそうです。ちょっと見て勉強してこようと思いますけど。あることに凝り固まって、こんな施設ではなくて、いろいろな面に使えるような、こんな施設、こんな場所、そういうふうに考えていただけると様々なところで利用ができるんじゃないかなと思います。

学校のプールですが、絶対に廃止したら駄目だと思います。プールをなしにするだけで学校生活がガ

ラッと変わっちゃいます。来年度から学習指導要領が変わって、大変ですよ。勉強時間が増えて。一日のうち相当な時間でかけるとなると、使っちゃうことになりますから、学校生活全般が変わっちゃうということを考えて、プールをどうするかをみんなで考えていけると良いと思います。

○市民

PFI 事業に対する情報が非常に少ない。賛成だの反対だの意見を言えるほどのデータを持ち合わせておりません。市営住宅だと数千円で入居してますね。それが新市営住宅になった時に何万円か知りませんが、数倍の入居費になりますね。そうなったときにどれだけ入居者がいるんですか。そういうデータはあるんですか。それが需要調査ですよ。市民はお客様なんですよ。お客様が何を要望しているのか。そういう調査なしに事が進んでいるんじゃないですか。何人くらいそこに入居したいか。そういうデータは当然あるんでしょうね。今のは一例で、市民が、お客様が、どれだけ要望してるか。そういうデータを、民間のノウハウを活用して PFI 事業をやると言うんだったら、民間だったら当然投資するまえにやりますよ。需要調査を。これだけ莫大な金を投資するのに、メリットがあるか、費用対効果があるか、当然やりますよね。それでもって計画をするのが当たり前なんです。当然データ持ってますよね。そういうところを公開してほしいです。十分にメリットがあれば賛成です。その辺が全然分からないので偉そうに賛成・反対は言えません。そういう情報を公開してから議論したいですよ。

○事務局

建て替えた場合の住民の意向調査が行われているのかという質問ですが、建築課が取り壊す市営住宅の方に、「料金はこれくらい上がりますよ」というものを、実際対米住宅なんかを今回の市営住宅に建て替えますと、大幅に入居料が上がるというケースはあります。それでもそちらに移りたいですか、という意向調査を建築課がやっております、そのデータは市のほうを持っている状況です。もう一点、付け加えてお話をさせていただくと、市では市営住宅の長寿命化計画というのを建築課が持っております。地元新聞にも載ってましたが、将来的には市営住宅は減っていくと予想しております。建て替えるごとに全体の戸数は圧縮していくと、建築課は考えております。そのように市は考えておりますので、もしよろしければ建築課か、検証室の方でもそのデータを持っておりますので、よろしければご覧いただければと思います。

○市民

皆さんの意見を聞いてますと、この PFI 事業における周知徹底がなされてなかったということが露見されてると思います。というのは、この PFI は平成 23 年度から計画されてきてるんですよ。公に私がこの活動を耳にして興味を持って参加したのが、平成 26 年ぐらいかな、この事業に対してお話があったと思うんです。ワーキンググループ 12 回開催しましたとなっておりますが、これ市民と専門家。この市民というのが X (エックス) なんですよ。なんとなく知人とか友だちにお声がけをした、知り合い仲間のお話だったようなことを耳にしています。そしたら開催もうまくいきますよね。その次の平成 25 年の PFI 実現可能調査というのも、これも名大の先生を呼んでいろんなことをなされたと聞いてますけども、それも理想郷に対して突っ走ってくような検討会だったような感じを受けてます。平成 26 年の第 9 回日本ファシリティマネジメント大賞奨励賞と、これを受けてしまったがために、どうしてもこれを進めてかなけ

ればいけないという強引さが、PFI の特別室の方たちと、私いろんな所に出て色々な話を聞いて、いろいろ意見交換しました。でもそれは一方通行であって、私達市民の意見は取り入れられない。この事業をどこの企業が落札するのかというのも、非常に限られた期間で、手を上げることのできない、ある程度その事業をやろうとしている人間が決まってる落札だったような感じを受けます。ただ 1 社しか落札の時も名を挙げてなかったと思います。だったらそこで、PFI でいちばん大事なのは、「地元企業を優先して」と言ってみえたと思うんですよね。「地元企業による地元企業のための事業をいまからやっていきます」と聞いてたんですけれども。そこに参入する人たちが足並みも揃えられないような、短期間において事業を推し進めていこうとするような感じを第三者として受けております。そんな感じで進めてきたこの PFI 事業ですが、今も「聞いてません。知りません。初めて聞く。」というようなお話があります。そういったやり方で来てしまってスタートしたから、今現在このような「こうしてほしい」とか「こうやってほしい」など、新たな希望が出てくる状況に陥ってしまっていると思います。これが無駄か無駄でないかは後世で判断されるわけですが、とにかく学校のプール一つにとっても、学校関係の教育現場の人たちの意見は何も聞いてない。福祉の問題にしても、福祉課の人たちが話し合いの場に招かれていない。どこか別室の特別な部屋で決まった人たちでこの話を推し進めてきたという現状が、今ここに至ってのつまづきになってると思うんです。それがわかって中村市長が「これではいけない、なんとかしなくては」と思い立候補されたと思うのですが、その後も中止に対して「受け取ってない」「聞いてない」とか、もう大人のやってることじゃないんですよね。相手方はマスコミを上手く使って、公に西尾の恥を出してるような感じでテレビで報道されたり、新聞に載ったりして、これはいったい何を後からゴタゴタしているのかのような現状です。もうちょっと風通し良く、いろんな部署との話合いも兼ねること、住宅のことにしても、先程住んでいる住民に直接聞きましたとか言われますけど、そこ住んでいる人に聞いてみても「何も聞いてない」と言われる現状を私は耳にしていますから、一体どこの誰に聞いて回答を得て、「こういったお墨付きがありますよ、資料がありますよ」といつてみえるのか。摩訶不思議な PFI だと思いますので、風通し良く皆さん話し合ってください。

○司会

予定の終了時間が近づいてまいりましたが、まだ意見があるという方は手を上げていただけますでしょうか。何名ほど見えますでしょうか。それでは、予定は午後 8 時でございますが、はじめに多少の延長もということで言いましたので、午後 8 時 15 分までを目処で質問の方をお願いしたいと思いますので、皆様簡潔にお願い致します。

○市民

選挙の翌日の話ですが、夕方お店屋に行ったんです。お店というのは庶民の声が集まる場所なんです。その女将さんが「中村さんと榊原さんがあられだけ開くとは思わなかった」と言っていました。「中村さんが岡崎高校を出て、大阪大学を出てる。この方ならなんとかしてくれるんじゃないか」と言っていた。私は感心しました。おばちゃんというのは政治に疎い方が多いんですけど、まとめ方がうまいなと思いました。市長、そういうことで頑張ってくださいたい。市議員の方で PFI に賛成された方があって聞いております。その人達の意見を私は一度聞きたいなと思います。もう一つ、こういう資料をもらいますが、ここでさっと読んでと言っても読めないです。読んで意見を聞くにはどうしたらよいかというこ

とを考えていただきたいと思います。

○事務局

今日お渡しした資料は、一度お帰りになってからじっくり読んでいただければと思います。一番裏に連絡先が書いてありますので、こちらの方にお越しいただいても、電話で連絡いただいても結構です。それでまた意見を言っていたらと思います。

○市民

この1年半ほどPFIに関心を持って興味を持って、ずっと議会を傍聴していました。誰が聞いても最初300億、30年、それを1社の会社に丸投げのような形で任せてしまう。こんなような計画っていうのは誰に言っても「あり得ない」と言う。それが、どんどん進んでいくことにとっても不思議に思っていたんですね。仮契約の時に300億だったものを、1週間前に100億減らして200億にしてきた。それで仮契約を通して、その後6月27日に最終議決があったんです。西尾市民への説明会は6月12日。それまで1回もやってこなかったんですね。結局、市民に隠してやってきたとしか考えられなかったんです。周りの人もみんな知らないし、前市長とやってこられた方たちは「何回も説明した」「説明会を何回やった」ということを、声高に言っておられましたけれども、みんな知らなかった。新聞に載ってましたが、「最初の議決の時に前市長、副市長が議員さんに電話をかけておねがいをした」と。そうやって無理くりやってきてしまったという。これによって私達市民がどれだけのお金をドブに捨てるようなことに結果的にはなっているんですね。議員さんにも非常に責任を感じていただきたいと思います。市役所内部の方も、あれだけ大勢の部長さんやら課長さんやら偉い方がいっぱいいるのに、どうしてこんなことを誰も何も言わないんだ。資産経営課というわずか数人の方たちと副市長、市長。この数人の方たちが進めてきてしまったものを、市役所内部の方たちは契約する時でも、契約書をもらってなかったということを議会で聞いてびっくりしたんですけれども。よく大きい企業で不祥事があった時に、何が問題だったかという、結局言いたいことが言えなかったような内部体制が一番の問題だったと思います。今回も市役所の内部体制、市役所全体、これを新市長になってぜひ変えていただきたいと、風通しの良い、意見の言える体制にしていきたいと、切に思っております。

○市民

昨日吉良に行かせていただいて、意見は遠慮しようと思ったのですが、腹が立ってきたのでかなり強口調で申し上げたことは、お許し願いたいと思います。今の市長さんは話をお聞きしてますと非常に優しい。喋り方も優しい。意見を吸い上げて、公平でいいなあと。私も若い頃は優しかったんですけれども、年が63にもなると先が短いなど。言いたいこと言って、キツイことも言います。ここにお集まりの皆さん。吉良もそうでしたけれども、非常に熱がある。ということは非常にこの問題を顕著に表していることは明白です。それぞれの人がそれぞれの意見を言うから、これは民主主義でこんなことやってたらもうとりまとめるしかない。ということは我々はどうするかというと、選挙で議員を選びますね。我々の声が議員さんたちを通して、行政の方へ上がっていかなければ行けない。そのパイプ役を議員が担っている。今回のPFIは話を聞いてますと、我々の市民の意向に反して、一つの群衆というか、権力の横暴というものが独り歩きしている。どんどん計画が進んでいって、始まってからみんなが驚いている。

役場がなくなっちゃう。私も驚いている。今まではおまかせしとったわけですよ。私達の気持ちを吸い上げてくれると信じていたから、何も言わないんですよ。ところが、それが独り歩きして怪物になっていったというのが、今回のことじゃないかと思います。

PFI 事業のあゆみというのを昨日資料もらって初めて見たんですけど、ここに議会のことが書いてあって、数回あってそこで決定されたことですが、このように皆さんの意見の反対のことが議会で通っていく。これはどういうことかな。損害賠償の話もそうですが、今止めないと、将来に対して大きなツケを回すということで、今止めたほうが良い。この損害賠償の話は、協議で行えば何事もまとまればそれは良いのですが、そういうふうにはできない場合は法的に、決着をつけるということですね。そこで弁護士が出てきて、法律的にどういうことかということですね。こんなふうになったのは誰の責任か。議会でもこれでいいと。我々の意見に反してしたことが、どんどん独り歩きしても。前市長に質問したって、そんなものは。始まっちゃってるから。一色の支所についても移転しちゃう。壊すな壊すな言っても。バリケードみたいになっちゃうけど。あれは壊すんですか。当選されて見直すと言っているけども。それからまだ開始することがありますか。にもかかわらず、当選されてから何か新たに。

○市長

新たにといいますか・・・。

○市民

新たにと言うのは、修理なんかは途中でやめる訳にはいきませんよ。すぐやめると言っても、そこで働いている人たちのこともあるから、やりかけのことはやらにやしようがないですよ。だけれども、その計画しとって、中止してくれと言っているのに、この支所が壊されていくという危惧を持ってるわけですから。新たにやり始めちゃったことがあれば。

○市長

新たには、ありません。

○市民

ほじゃいいです。でないと損害賠償の額がどんどんふえていくからね。この損害賠償の額は、将来にツケを回さない。将来につけを回すよりは良いということで、そういう権利でしょ。今やってることを止めるというのは。どうですか市長さん。

○市長

そういう考えで、工事を中断しました。

○市民

だから、損害賠償が損だ損だと言って、このままやろうとしている人がいるけれども、みんなの意見が議会を通らない。そうするとわれわれは選挙で選ぶしかない。それしか我々にはやる手法がないです。だから国だって安倍さんだって、お友達はいかんよ。明白なことです。だけれども選挙で勝てばわれわ

れはどうぞやってくださいということにもなるから、責任は私たち一人ひとりにもあるんです。申し訳ないと思うけども、早くやってください。

○司会

時間の都合がありますので、あと2人ということによろしいでしょうか。

○市民

昨日も吉良の懇談会に出させていただきましたが、ややもすると前の市長がどうのなんだから。副市長がどうのこうのと言ってるんだけど、PFIの見直し、あるいは凍結もあるよと言ってるなかで、一つ提案ですが、今一色のB&Gのプールがありますよね。今問題になっているのは寺津の小中学校区、そっちのほうにプールを作るとか言ってるんだけど、寺津地区の方では土地の代替え地がないとか、そういったお話も聞いております。そこで今ある現状の一色町のプールを、上手く活用していただけないかなど。この一色町にもそういった公共の施設が、西尾の代表になるような立派なプールを作っていただきたい。ということと、例えば津波に関しても、立体駐車場にすることによって、スペースも小さくて、高さを稼げれば、津波だとかそういったものの、活用にもなると思いますが、皆さん方いかがでしょうか。ぜひ一色の中に今ある現場の施設を有効的に活用していただきたいと思います。

○市民

このPFI事業の問題を前から一貫して申し上げてきましたが、一色町に関して申しますと、市営住宅。それからB&Gプール。この2点について申し上げたいと思います。

公営住宅のあり方でございますけども、今年市会議員の選挙がありまして、私ども一色の町内を隅々まで回らせていただきました。そういったなかで本当に驚いたのは空き家が多い。アパートも空き家が多い。アパートに関しては入居者が少ないので外国人が非常に多い。今一色町、西尾、日本全体に言えることだと思いますが、住宅は余る時代になってきております。この住宅法というのは終戦後の住宅難の時代にできて、住宅に困窮する、住宅を求める低所得者のために、できた法律でありまして、それによって市営住宅は運営されているわけではありますが、もう公営住宅をどんどん作る時代は終わったと思っております。数字を上げて申しますけども、人口18万の安城市は市営住宅は確か827ぐらいだったと思います。西尾市の市営住宅は確か1270か1280か。この数字一つとっても、17万人の西尾市に1270・1280の市営住宅がある。一色町に関しては味浜の市営住宅、立派なものが建っております、県が開正住宅を運営してくれます。治明団地ですね。公営住宅が豊富にある街であります。このSPCという業者は、事業者というよりもむしろコンサルですが、一色の人口減少に歯止めをかけるために市営住宅を作るという説明でしたが、私はこれは全く間違ったことだと思っています。

B&Gのプールでございますが、先程「プールは残せ」という強い要望がありましたが私も全く同じであります。先日寺津の町内会長、地元の市会議員2名、この中には最大会派の会長も同席されておりましたが、「学校敷地の中に市民プールを作るな」という要望を市長の所にされました。たしかにあそこの立地条件は市民プールにするには大変不向きな場所であります。したがって、もともと寺津のプールは小学校のプールと中学校のプールと2つが並んでおりますので、それを一つにまとめるというのが、市の業務要求水準であったわけですので、当初の計画通り、学校の中にはプールは、学校プールは作る

けども市民プールは作らない。市民の皆様にご利用していただくプールは、B&Gのプールが非常に駐車場も完備しとります。経費もかかりませんので、ぜひともB&Gのプールを改修して残してほしい。

○市民

PFIに賛成する立場から一言市長さんをお願いしたいなと思います。確かに市長さん市長選の時に、PFIに対して白紙だとか撤回だとかいうことで当選されました。しかし、市長さんが当選された翌日からは17万人市民のリーダーになられたわけですので、ぜひ51対49みたいな市政運営だけはやめていただきたいなと思います。市長さんが市長になられる前の市会議員の時に、6月にPFI事業が賛成多数で議決をされました。日本は民主主義の国であります。先程の方がどなたかおっしゃってましたけども、自分たちが選んだ議員が、民意を受けて一つの結論を民主的に出したわけであります。それまでにはそれぞれの立場から、おのおの議員の方々が、市長さんもその立場であったわけですが、賛成反対の議論をされました。そして最終的には民主的な多数決という形で一つの結論を得たわけです。これは民主主義の大原則であると思ってるんです。その後、民間の事業会社と契約を交わしました。契約を交わすというのは資本主義の最も大事なことであります。したがってこの民主主義と資本主義の大原則、もっとも信頼しなきゃいけない手続っていうものを覆すというのは、非常に問題が多くなると僕は思ってるんです。契約後にいろんな形で変更したりとか、そういったことは往々にしてありますけれども、これはスタート地点というか共通認識として、やはり民主的なルールに従って決まった結論を、資本主義の大原則であるお互いに信義を持って契約したというところをスタート地点にしないと、あたかもそういったものを無視して、市長さんが変わったからなんでも変えられちゃうんだ、というイメージを反対派の方・賛成の方同じですけども、そういったふうなイメージを与えるようなことは僕は問題が大きいなと思います。競技のスタート地点は、これは正式に民主的に議決されたものを、お互いに公正に契約を交わしたんだという、そこからさき市長さんが変わられたんで、この先どういう風に変更してきましょうか、どういったことを譲ってもらえるのでしょうか、というふうな協議で初めてそこから進んでいけるんだと思うんです。ぜひ17万市民のリーダー、私も市民です。市税も払ってますし、法人税も払ってます。一人でも多くの市民が納得できるような結論を出していただきたいなと思います。

○司会

予定の時刻が過ぎましたので、閉会にあたり市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○市長

本日は2時間近くにわたりまして、本当にありがとうございました。本日いただいた意見のなかで、ちょっとだけコメントというかお返事をさせていただきたいものがあります。まずひとつは冒頭でも申し上げましたが、情報の公開ですとか、情報の発信について。これについて、ひとつは発信が足らなかった部分については、今後しっかりとやっていきたいと思えます。市民の皆さんに判断していただくための材料という部分で、これまで正直市として情報公開に対して、僕は後ろ向きだったと思ってます。自分も誤解をしていたんですが、PFI事業というのは表に出せない部分が結構大きいので、それが民主主義にとって場合によってはマイナスになるんじゃないかということ、内閣府ですとか、PFIにすごい力を入れているというか、専門的な人材が集まっている東洋大学っていう東京にあるんですけど、そうし

たところの業者とかに研修とか電話とかで、お尋ねする機会があって、「これを本当に国が進めてるんですかね」ということを自分なりに疑問だったので聞いたんですけど、内閣府も教授の方も、「PFI だから情報が出せない」とか「PFI だから民意に反することがある」ではないということはきっぱり言われました。ということは、結論としては西尾市としての運用の部分で、情報公開に内向きだったんだというふうで、自分では解決しました。ここについては 100%開くかどうかわかりませんが、市としての運用の部分であれば、しっかりこれまで情報を黒塗りしていた部分についても、できる限り出すなかで、市民の皆さんと情報を共有してやっていきたいと私自身は考えております。

議員さんが民意を反映しているか、していないかの部分については、僕がコメントするつもりはございませんが、たしかに日本というのは議会制民主主義、ようは間接民主制というのを採用しています。一方、市政というのは一番皆さんの生活に身近なところをやる政治であります。そうするとベースとしては議会制民主主義ですが、やっぱり皆さんの声を直接聞くというのは、私自身は市政運営にあたってすごい重要な事だと思っております。そうしたなかで今回、意見交換会をさせていただいたわけでありますので、いろいろ考え方はあると思いますし、私自身も確かに 17 万市民のトップということで、その役割は自覚をしているところでもありますけれども、今回の PFI だけに限らず、今後市政運営を担っていくにあたり、決まったことだけをお知らせするのではなくて、決まらない段階でみなさんと一緒に西尾市のこれからを考えていきたいというのは、おべんちゃらでもなんでもなくて、本心で思っていて、それをやりたいというのが市長選挙に出た大きな理由でありますので。そこをご理解いただいて、皆様方のご理解ご協力のもとで、しっかりと市政運営をやっていきたいと思っておりますし、今回の PFI 事業についても一色の皆さんに聞くのはこれで終わりではなくて、例えば町内会なんかでもうちちょっと少人数で意見交換がしたいというところは、先ほど申しました 39 ページの連絡先に遠慮なくお聞かせいただければいいですし、学校の PTA とか敬老会とかそういった団体でも構いませんので、今日だけではなかなか資料の読み込みとかも含めて、十分に意見交換とか説明がわからなかったという方もいらっしゃると思いますので、そうした方は遠慮なくご連絡をいただいて、私どもとしましても、そうしたコミュニケーションが足らなかったとか変な誤解があるなかで進めていくのではなくて、しっかりとコミュニケーションをとって、お互いに同じ方向を向いて進めていくなかで市政運営はしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

○司会

最後に事務局からご連絡いたします。アンケート用紙をお持ちの方は、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱にお入れいただきますようお願い致します。本日は音響の乱れがありまして、お聞き取りにくかったことをお詫び申し上げます。それではこれを持ちまして「市長と語る意見交換会（一色地区）」を閉会いたします。交通安全にご留意いただき、お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

※個人情報等の都合上、表現を一部修正しています。